

沿革

- 明治36年4月 ▶ 名取郡茂ヶ崎村（現仙台市太白区根岸）に宮城県農事試験場が設置され、本県の農業試験研究が開始。
- 明治41年4月 ▶ 宮城県立農事試験場に改称。
- 大正10年4月 ▶ 農事試験場を名取郡岩沼町（現岩沼市）に移転。農事試験場分場を古川町（現大崎市古川）に新設。
- 昭和19年4月 ▶ 宮城県立農事指導所と改称。
- 昭和21年4月 ▶ 宮城県立農業試験場と改称。
- 昭和28年4月 ▶ 仙台市原町（現仙台市宮城野区幸町）に移転し、農機具、経営、畜産及び林業の各部門が増設され、総合的な農業試験場となる。
- 昭和45年4月 ▶ 林業部門が林業試験場として独立（大衡村）。
- 昭和48年4月 ▶ 新しい農業情勢に対応するため、試験研究施設を整備し、農業試験研究機関の連絡調整機能を整え、宮城県農業センターとして現在地に移転。同時に園芸試験場(現在地)、古川農業試験場(現大崎市古川)及び畜産試験場(現大崎市岩出山)が独立。
- 平成13年4月 ▶ 農業、園芸及び蚕業に関する試験研究及び奨励指導を行い、また、古川農業試験場及び畜産試験場が行う試験研究等並びに農業実践大学校（現農業大学校）が行う研修等に関し連絡調整するとともに、これらの機関の機能を結集し、農業の高度化に対応するため、農業・園芸総合研究所を設置。
- 平成21年4月 ▶ 蚕業担当の廃止。
- 平成31年4月 ▶ 組織再編。バイオテクノロジー開発部の廃止。野菜部、花き・果樹部の新設。